

第9回 ESD・社会科理論研究会 概要報告

◇開催日時 平成29年5月25日(木) 19時～21時

◇会場 中澤研究室

◇参加者 河野・新宮・島・中澤哲・中澤

◇内容

第4章「学びを極める」

- ・スキーマとは 概念的枠組み 生活経験をとって獲得する
- ・構造化された知識：因果関係で結ばれた知識
- ・OutPutを意識させることで、子どもは知識の整合性を図ろうとする。それが構造化された知識を促す。
- ・熟達するとは、構造的な知識をもつこと。構造的な知識であれば、臨機応変に対応できる。
- ・素早く・的確に判断できる スキーマが働いている「スキルの自動化」
- ・自分の中に情報処理システムを構築する必要がある。
- ・メンタルシミュレーション 「カン」

直観の2つ

ひらめき 全体的な見通し

直観 次の一手

- ・認識できるものは記憶されやすい
- ・審美眼 よいものを見続けることで型として身についていく
- ・心的表象＝スキーマ



第5章「熟達による脳の進化」

- ・改良されるとは、素早く行うために特化した神経のネットワークシステムをつくっていくこと。
- ・熟達とは、自動処理と制御処理の双方のシステムをつくっていき、バランスよく働かせること。
- ・熟達により脳の構造も変化する。
- ・学習は模倣から
- ・模倣は、実際に体を動かして習得する。
- ・手続きが埋め込まれた知識—知識・技能 何度も使うことで身体の一部に
- ・熟達者の直観と臨機応変な判断は、長年の習慣的な経験の繰り返しから生まれる
- ・生きた知識 手続きと一緒にあった知識 知識・技能

次回、第10回は6月22日(木) 19時～ 中澤研究室

第6章と第7章を購読します。

